種をつなぐ人

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　辻はるか

「私は種を守り、つなぐ農家になりたい」そう思い始めたのは、梅本さんとの出会いからでした。

京都府の北端、京丹後市に梅本農場という有機農家さんがいらっしゃいます。梅本さんは、東京で大手食品会社に勤めておられましたが、「添加物の多い食品を子供たちに食べさせていいのか」と思うようになり、就農を始めました。それから約２０年、現在は４ヘクタールの農地で年間１５０種類の野菜を有機栽培されています。梅本さんの野菜セットを実家で毎週購入しているつながりから、今までも何度か実習に行かせていただいています。

梅本さんは、子供たちの健康と体づくりのために「子供たちに安心安全な食べ物を提供する」ことを目指して農業をされています。有機野菜は比較的高価なものとされていますが、本当は子供たちをはじめ、だれでも普通に食べることができるべきだと考えておられます。

梅本さんは、オルターという食品流通会社に出荷したり、個人客に配達したりするほか、地元の小学校の給食用に野菜を卸しておられます。あるとき、京都市内の給食センターを見学した際、給食の食材に輸入野菜が多く使用されているのを見て、とても驚いたそうです。「日本や世界の将来を担っていく子供たちがしっかりと健康に育つためには、これではだめだ」とすべての給食食材を地域で採れたものにしようと活動を始められました。７名の農家と学校給食委員会を立ち上げ、学校給食に地域で採れた食材の使用を増やしていっておられます。

実際に、梅本さんは学校給食にニンジンを卸しています。それだけでなく小学生の畑体験や、食育の授業などもされています。畑体験では、小学生が梅本農場を訪ね、畑に入り、自分たちが食べているものがどういうところで育ったものなのか、自分の目で見て、肌で感じます。食育の授業では、農家の暮らしや、農業の素晴らしさを小学生に伝えています。地域の小学生たちは梅本さんとの交流を通して、農業の大変さだけでなく、食の大切さを感じています。

小学生に安心安全な野菜を提供できる裏側には、梅本さんのたくさんのこだわりがありました。特に大切にされているのが、土づくりです。農場でひときわ目を引く、大量の草の山があります。河川敷を草刈りしたときの草をもらってきて、山積みにしておくことで、微生物がどんどん分解し、何年後かには完全な土になるそうです。朝のまだ気温の低いときには、草の山から湯気が上がります。足を入れてみると、長靴を履いていても、草が発酵してじんわりとした暖かさを感じました。微生物が働いている証拠です。自然界では、落ち葉や枯れた草などが微生物によって分解されて、新しい土として地上にどんどん積もっていきます。この自然の法則と同じように、微生物が草から土に分解してくれたものを、毎年畑に積んでいくという土づくりをされています。自然界では、１センチの土が積もるのに、50～100年はかかるといわれています。「草を重ね自然な土を作る。簡単なことだけどとても大切なこと。野菜を作るだけが農家の仕事じゃない」と梅本さんはおっしゃっていました。梅本さんは、畑の土を手に取って「この中には、見えないけれどたくさんの微生物がいて、野菜を育ててくれている」と教えてくださいました。

梅本さんは種を選ぶのがとても楽しいとおっしゃいます。種まきの季節になると、いろんな種屋さんからパンフレットが届きます。今年はどんな種が出てくるのか、カタログをめくるときは毎年ワクワクするそうです。梅本農場では、種を自然農法センターや種の森などから購入していて、どれも自然農法、無農薬・無化学肥料で栽培されています。有機栽培の種を使うことによって、自家採種が安定し、持続可能な有機農業が実現します。そして、なにより有機野菜を求める消費者の方々に本当に安心して野菜を買っていただくことができます。だから小学生にも、自信をもって安心安全な食材が提供できているのだなと納得しました。

私は梅本農場での実習を通して、土づくりの大切さや、誰かのために農業をする素晴らしさ、喜びを教えていただきました。私は子供たちに何を伝えていきたいのか、次世代に何を残していきたいのかと考えました。私にとって次世代へ守りつないでいきたいものは、「種」でした。種は命そのものです。どれだけ農業がしたくても、種がなければなにも始まりません。

私は将来、農地の半分で種の栽培、残りの半分で野菜の栽培をしたいと考えています。種を守りつなぐ農家として、食べ物の元である種の本当の姿を、子供たちに伝えていく、そんな活動をしていきたいです。その活動の一つとして、親子種まきをしたいと考えています。畑で手作りした土を使い、有機栽培の種を親子でまいて、各家庭に持ち帰って水やりをしていきます。栽培に必要な道具はセットにして親子に貸し出し、育てた野菜を収穫し、種を採ったら体験は終了です。まいた種がどのようにしてできたのか、これからどのようにして食べ物になっていくのかを日々の生活の中で観察し、収穫の喜びを親子で分かち合ってほしいです。親子で体験を共有することで、種から見える食と農業に気づき、自然の恵みや喜びに興味関心を持ってほしいと思います。

種には無限の可能性があります。私たちの意識行動しだいで先人が守り続けてきた種は、形、存在を変えてしまいます。種を守って次世代につないでいくことは農家の義務だと私は思います。土を大切にし、種を守り、つないでいく。野菜を作って出荷するだけでなく、未来に種をつなぐ人に私はなりたいです。

2281文字